

日本語学習者は実際に能力が上がっているのか  
— Can-do-statements による調査 —

木村静子  
国際大学

要旨

国際大学日本語プログラムでは主として中級、上級コースの学生を対象に2010年より Can-do-statements 調査を行なっている。本稿では2010年からの過去2年間の上級の学生の調査結果を分析し、学生の日本語能力の伸びを見た。その結果、上級3のコースは上級1のコースと比べて日本語能力に伸びが見られない、または逆転して能力が下がっていること、一方上級6コースは上級3より日本語能力が確かに上がっているという結果になった。

キーワード：Can-do-statements、4技能、t検定

0. はじめに

国際大学は大学院大学であり、学年の開始が10月、終わりが6月で、10週間ごとの3学期制である。そして、国際大学日本語プログラムには、基礎、初級<sup>1</sup>、中級、上級のコースが1年間あり、学生は1学期ごとに登録を行なうので1年間履修する学生もいれば、途中で辞めてしまう学生もいる。

日本語プログラムでは年度の初めに、基礎、初級、中級、上級の担当者が、担当するコースの達成目標を設定し、その目標に向けてどのようなことを行なっていくかを決めている。そして、その決めたものを日本語プログラム全員で、無理がない妥当な目標であるかを互に検討すると同時に、各コース間に大きなギャップがなく、コースの内容ができるだけ連続していくように調整なども行なっている。どのコースにおいても達成目標には日本語能力試験（以下 JLPT）と OPI (Oral Proficiency Interview Test)を入れている。国際大学は専門の授業が英語で行なわれ、学内の公用語も英語なので、入学に際し日本語能力は必要条件に入っていない。さらに、学生が日本語を使う場面は非常に限られているので、他大学の中級、上級コースと国際大学の中級、上級コースはレベル的に異なっているだろう。ただ、上級のコースには JLPT の N2 や N1 合格者も在籍している。各コースの JLPT と OPI に関する到達目標は以下の表1の通りである。

表1 各コースの JLPT と OPI の到達目標（2012年6月現在）

	基礎3終了時点	初級3終了時点	中級3終了時点	上級3終了時点
JLPT	N5、N4	N4	N3、N2	N2、N1
OPI	初—上	中—下/中	中—上、上—下	上—中/上

「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能のうち「話す」に関しては、各コースが設定し

た OPI のレベルに学生が達したかどうかを測るために、年度末に OPI のテスター有資格者が各コースから選ばれた 1～2 人の学生に OPI を実施している<sup>2</sup>。しかし、他の技能に関しても到達目標に達しているかどうかを測るにはどうしたらよいかということになり、Can-do-statements (以下 Cds) 調査を行なうことにした。Cds とは、ある言語を用いて学習者がどんなことができるかを具体的に記述したものであり、Council of Europe が開発した Common Europe Framework of Reference for Languages (以下 Cefer)がある。また最近では、国際交流基金が JF 日本語教育スタンダード (以下 JF スタンダード) を開発した。そこで、国際大学日本語プログラムでは、保坂<sup>3</sup>が開発した調査項目を参考にして Cds 調査項目を作成し、調査を実施することにした。この調査は 2010 年に開始したので、本稿では筆者が担当する上級コースの 2 年間の調査結果について報告する。

## 1. 先行研究

Cds を利用した調査は管見では島田他 (2008) と保坂 (2009) が見られる。島田他 (2008) では、東京学芸大学と協定校との間での日本語科目の対応づけを行なうことを目的として Cds 調査を行なった。その結果、東京学芸大学の各レベルと各協定校との Cds の平均値の対応ができた。保坂 (2009) では短期交換プログラムの一環である日本語クラスのレベル設定を明示化するために Cds 調査を実施した。そして、4 技能についてレベル分けした各クラスの平均値を出した。

また、島田他 (2003) の東京学芸大学留学生センターで行なわれるプレイスメントテストと Cds 調査の結果を比較した研究では、Cds の「読む、聞く」がプレイスメントテストの結果と相関が高く、「書く、話す」の相関が低いという結果になった。

## 2. Cds 調査について

### 2. 1. 目的

Cds 調査を実施することにした理由は、前述のように学生がコースの到達目標に達しているかを測るためであるが、それに加え日本語プログラムを評価するためにもこの調査を行なうことにした。国際大学では学生による教師の評価は約 20 年も前から行なわれている。そして、第三者によるプログラム評価も行なわれたことがあったが、教師が行なっている授業を目に見える形で第三者に示す手段の一つとして Cds 調査は有効なのではないかと考えた。それは、学生の到達度をグラフや表などの目に見える形で提示することができるからである。以上の理由により Cds 調査を行なうことにした。

そして過去 2 年間調査を行なったので、本稿では、上級の学生がこの 2 年間で日本語能力がはたして伸びたのかどうかを見ることにした。

### 2. 2. 調査の概要

Cds 調査項目は保坂が開発した調査項目を参考にしたが、国際大学の事情に即した項目にした。国際大学は大学院大学であり、専門の授業は英語で行なわれていること、したがって学内の公用語も英語であることから、例えば「ガス、水道、電気の請求書を見て必要なこ

とがわかるか」、「図書館や学校の事務の書類が書けるか」、「講義、講演がわかるか」というような、大学内、あるいは日常生活では起こり得ないような項目は省いた。

調査項目 4 は「話す、聞く、読む、書く」の 4 技能であり、それぞれの調査項目数は表 2 の通りである。また、調査項目にはすべて英語訳をつけた。

表 2 Cds 調査項目数

	話す	聞く	読む	書く
項目数	31	18	26	18

回答は以下のように 1～5 の 5 レベルとし、該当する数字を選ばせた。

- |                     |                             |
|---------------------|-----------------------------|
| 1 まったくできない          | not at all                  |
| 2 少しできる             | a little                    |
| 3 なんとかできる           | with some difficulty        |
| 4 少し問題はあがあるが、できると思う | with very little difficulty |
| 5 問題なくできる           | easily                      |

調査は年度の始まりの 10 月と学年末の 6 月に行なったが、授業の中で行なったためその日に休んでいる学生は含まれておらず、学生数が非常に少ない場合もあった。

Cds 調査の対象であるが、国際大学は先述したように専門の授業が英語で行なわれているので、日本語の基礎 1、初級 1 コースには全くのゼロレベルの学生が在籍している。したがって、これら両コースの学生に Cds 調査を年度の初めに行なうことは無理であり、かつ意味がないので、基礎と初級コースに対する Cds 調査は実施開始年度の終わり、つまり 2011 年の 6 月に行なった。中級と上級コースの学生を対象とした調査は年度の初めと終わりに毎年行なった。学生は 1 年間ずっと在籍しているとは限らないので、年度の初めと終わりでは回答者の数が違っている。

筆者は 2010 年より上級コースを担当しているので、本稿では過去 2 年間の上級コースの Cds 調査の結果について報告するが、上級のコースは学生数が少なく、なおかつ調査の日に欠席した学生もいたりして、統計的に見ても調査対象としては大変少ないのだが、結果を見ることはその後の研究にもつながると思い結果の分析を行なうことにした。本稿の結果分析の対象となった学生数は以下の表 3 に示した。なお、上級 1～3 の 1 学期の学習時間は 45 時間であり、上級 4～6 の 1 学期の学習時間は 30 時間である。

表 3 上級コースの回答者数

	話す	聞く	読む	書く
上級 1	9 人	9 人	7 人	7 人
上級 3	4 人	4 人	11 人	11 人
上級 6 <sup>5</sup>	6 人	6 人	7 人	6 人

本稿では、4 技能の調査結果および、上級 1 から上級 3 の 1 年間、さらに、上級 3 から上級 6 の 1 年間で日本語の 4 技能に伸びが見られたかどうかについて報告する。

### 3. Cds 調査の結果

国際大学日本語プログラムの初級、中級、上級コースで教える内容に即し、Cds の調査項目を初級、中級、上級の項目に分類し、その結果を述べることにする<sup>6</sup>。また、調査項目で Cefer の調査項目及び JF スタンダード<sup>7</sup>に該当する項目がある場合には、それも調査結果の報告に際し参考とした。

#### 3. 1. 「話す」の Cds 調査の結果

##### 3. 1. 1. 初級の「話す」調査項目の結果（調査項目 1～7）

上級 1 コースの初級の調査項目に対する回答の平均値はどの項目も 4.78 以上と高かった。一方、上級 3 コースの回答は、全員が回答 5 を選択した項目もあるが、それ以外の平均値が 4.5 あるいは 4.75 で、上級 1 より低い回答があった。どのように答えているのかを見ると、上級 3 コースの一人の学生が項目 6 と 7 に対して回答 3 の「なんとかできる」を選んでいった。上級 1 コースではこれらの項目に対して回答 3 を選んだ学生はおらず、4 か 5 レベルの回答だったので、低くなったものと思われる。ちなみに、項目 6 は「スーパーで値段を聞くことができますか」というものであり、項目 7 は「レストランなどで注文することができますか」というものであった。これらに上級 3 コースの学生が「なんとかできる」という回答えを選んだ理由は何なのだろうか。流暢に話すことも要求されているとか、どんな込み入った場面にも対応できることを要求されていると考えた上での「なんとかできる」という回答だったのだろうか。ただし、初級の質問項目に対しては、上級 3 は平均値が上級 1 より低くなった調査項目があるものの、全員が回答 5 を選んだ項目は上級 1 コースを上回った。

上級 6 の学生は初級の調査項目に対してすべて回答 5 を選択していた。

初級の調査項目は Cefer あるいは JF スタンダードでは A1 または A2 に該当する調査項目が含まれていた。

##### 3. 1. 2. 中級「話す」の調査項目の結果（調査項目 8～19、24、26、28）

これらの調査項目については、項目 8 と 14 以外は、すべて上級 1 コースより上級 3 コースのほうが平均値が低かった。特に項目 12、17、18、24、27 は、上級 1 の平均値が 4 点台であるのに対し、上級 3 の平均値は 3 点台であり、差が大きい。どのように答えているのかを見てみると、項目 12 と 18 に対する回答のレベルが最も多かったのは、上級 1 が回答 5 なのに対し、上級 3 は回答 3 である。また、項目 17 は上級 1 では回答 4 が最も多かったのに、上級 3 では回答 3 であった。項目 24、27 は上級 1 では、回答 5 を選んだ学生もいたのに対して、上級 3 は回答 3 と 4 が同数であり、回答 5 を選んだ学生はだれもいなかった。

上級 6 コースは調査項目 17 以外はすべて平均値が 4 以上であり、平均値が 3.83 の項目 17 も含めて、上級 1、3、6 の中では平均値が最も高かった。項目 17 は「医者に病気について説明することができますか」というものであった。これはこの項目を読んでイメージす

る幅が広く、学生がどのような場面を想定するかによって回答も違ってくると思われる。

### 3. 1. 3. 上級「話す」の調査項目の結果（調査項目 20～23、25,27、29～31）

上級1と上級3のコースを比べると、項目 21 を除いて、すべての項目において上級3の平均値のほうが低くなっていて、逆転している。平均値が2点台の項目もあった。上級6コースは上級1、3、6の中では平均値が最も高かった。

上級3の平均値のほうが上級1のそれより低いということについてだが、上級3コースでは、上級1の時より調査項目の内容に対してイメージする幅が広がり、いろいろな場面を想像し、そのような場面には十分に対応できないと考え、低い結果につながったのだろうか。それに対して上級1の段階では、イメージがそれほど広がらず、回答4や5を選ぶのだろうか。そして、上級6のレベルになると、イメージが広がっても、それに対処できる能力が備わっていて「できる」という選択肢、つまり回答4や5を選ぶのだろうか。

ちなみに、上級の調査項目には Cefer や JF スタンドの B1、B2 に該当する項目も含まれている。

以上、初級、中級、上級の調査項目の結果について述べてきたが、全体の平均値の範囲は以下の表4のようになった。

表4 「話す」の平均値の範囲

	上級1	上級3	上級6
初級レベルの調査項目	4.78-5	4.5-5	5
中級レベルの調査項目	3.56-4.67	3-4.75	3.83-5
上級レベルの調査項目	3-4.67	2.5-3.75	3.5-4.8

そして「話す」全体の調査項目の平均値は表5になった。

表5 「話す」の平均値と標準偏差

	上級1	上級3	上級6
人数	9	4	6
平均値	4.22	3.91	4.59
標準偏差	0.91	1.01	0.73

「話す」全体の平均値を見ても、上級1と上級3では逆転していて、上級1のほうが平均値が高くなっている。統計的に処理するには人数が大変少ないのだが、一応 t 検定を実施したところ、上級1と3では、t 統計量=2.93（自由度=12）で、危険率 2.179 であり、5%水準の有意差ありと認められた。つまり、話すにおいては上級1コースのほうが上級3コースより能力が高いという結果である。上級3と上級6、及び上級1と上級6でも有意差は以下のように認められ、上級6は上級1や3より能力が高いことがわかった。

上級3と上級6  $t(9)=6.408, p<.01$

上級1と上級6  $t(14)=4.78, p<.01$

#### 4. 1. 「聞く」の Cds 調査の結果

##### 4. 1. 1. 初級の「聞く」調査項目の結果（調査項目 1～6）

初級レベルに分類した調査項目の結果については、上級 1、3、6 の間でほとんど差は見られず、どのコースもレベル 4 以上の回答を選択していた。ただし、項目 3 については上級 3 の平均値は上級 1 のそれより低かった。しかし、内訳を見てみると、どちらのクラスも回答 4 を選んだのは一人で、残りの回答者はすべて回答 5 を選んでいるので、母集団の違いによるものと思われる。また、項目 6 は上級 6 の平均値が上級 3 のそれより低かった。この項目は「郵便局、銀行の窓口で、ゆっくりはっきり話されたら、必要な情報が得られますか」というものであった。「ゆっくりはっきり」と明示されているにもかかわらず、いろいろな場面を想定してしまったのだろうか。

初級の調査項目に関しては、コースのレベルが上がるとともに、回答 5 である「問題なくできる」という回答の割合が高くなっているが、上級 1 であっても回答 5 を選択した割合が最も高いことを考えると、初級の調査項目ではそれほどの差異が認められないということであろう。さらに、質問自体の内容がいろいろな場面を想像させるものがあることから、回答のばらつきが出たと思われる。

調査項目 1～6 は Cefer、JF スタンダードでは A1、A2、B1 に該当している項目が含まれていた。

##### 4. 1. 2. 中級の「聞く」調査項目の結果（調査項目 7～12）

中級の調査項目になると上級 1 コースの平均値は下がり、4 点前半から 3 点台後半になるが、上級 3 は平均値が 4 から 4.5 の間であった。上級 6 は項目 9 を除いて、平均値が 4.3 から 4.8 の間で、上級 1、3、6 の順で平均値が上がっていることがわかる。

調査項目 9 については上級 6 コースの平均値が上級 1、3、6 の 3 コースの中で最も悪く、3.83 であった。次に上級 3、そして、上級 1 が平均値が最も高いというまったく逆の状態であった。この項目は「電車、駅、デパートなどのアナウンス（放送）がわかりますか」というものであるが、上級 1 では回答 5 を選んだ学生が最も多いのに対し、上級 3 では回答 4、上級 6 では回答 3 を選んだ学生が最も多かった。

また、調査項目 10 についても同じような逆転が起こっており、平均値が上級 3、上級 6、上級 1 の順で高くなって行った。つまり、上級 1 コースの平均値が最も高く、回答 5 が最も多かったのに対し、上級 3 と 6 では回答 4 が最も多かった。項目 10 は「電車やバスの行き先や乗り換え方を聞いてわかりますか」であるが、この項目を読んでイメージする場面がコースによって違うのであろうか。

中級の調査項目になると、上級 1 は回答が 4 レベルにわたる場合も出てくるし、上級 3、さらには上級 6 でも回答が 3 レベルにわたるようになってきた。初級の調査項目と違い、中級の項目になると回答にばらつきが出てくるようになった。また、上級 1 では回答 5 の割合が最も高いのがほとんどであるのに対して、上級 3、6 では、回答 4 の割合が最も高い項目が多かった。これは、質問項目の内容の受け取り方の問題もあるのではないだろうか。つま

り、項目の内容が幅広い意味を含んでしまっているの、上のレベルになるほど、広い意味に取り、それらすべての場合について自分はこれくらいだという判断をしたのではないだろうか。つまり、項目の書き方そのものにも問題があるのかもしれない。

中級の調査項目は Cefer、JF スタンダードでは A2、B1、B2 に該当する項目が含まれていた。

#### 4. 1. 3. 上級の「聞く」調査項目の結果（調査項目 13～18）

上級レベルに分類した調査項目になると、上級 1 コースの平均値はさらに下がり、4.1 から 2.9 の間になった。上級 3 コースも平均が 4.3 から 3.8 の間になり、3 点台のものが多くなった。また、上級 6 コースも平均値が 3.7 から 4.5 の間になり、上級 6 でも 3 点台の平均が現れるようになった。

さらに調査項目 18 は、上級 6 の平均値が 3.67 であり、上級 3 の平均値の 4.0 より低くなっている。この項目は「新しく買った電化製品の取り扱いやサービスについての情報が理解できますか」というものであるが、上級 3 では回答 4 が最も多かったのに対し、上級 6 で最も多かった回答は 3 であった。

回答のばらつきに関しては、上級 1 → 3 → 6 の順番に少なくなる傾向が見られた。そして、上級 6 コースであっても、「簡単にできる」という回答 5 の割合が低いという結果になった。

上級の調査項目は Cefer、JF スタンダードの B2、C1 に該当する項目が含まれていた。

「聞く」全体の調査項目の平均値の範囲は以下の表 6 のようになった。

表 6 「聞く」の平均値の範囲

	上級 1	上級 3	上級 6
初級レベルの調査項目	4.11-4.89	4.5-5	4.67-5
中級レベルの調査項目	3.78-4.44	4-4.5	3.83-4.83
上級レベルの調査項目	2.89-4.11	3.75-4.25	3.67-4.5

そして「聞く」全体の調査項目の平均値は表 7 になった。

表 7 「聞く」の平均値と標準偏差

	上級 1	上級 3	上級 6
人数	9	4	6
平均値	4.04	4.28	4.44
標準偏差	0.99	0.697	0.687

やはり回答者数が少ないものの、平均値に有意差があるかどうかを調べるために t 検定を行なったところ、上級 1 と上級 3 では、t 統計量=2.129（自由度=12）で危険率 2.179 であり、5%水準で有意差がないという結果になった。さらに、上級 3 と上級 6 でも、t 統計量=1.493（自由度=9）で危険率 2.262 であり、5%水準で有意差がないことが認められた。し

かし、上級1と上級6は以下の結果になり、1%水準で有意差が認められた。

上級1と上級6  $t(14)=3.90, p<.01$

上級6コースの回答者は6名であったが、そのうち、2名はJLPTのN2合格者であり、もう2名はN1合格者であった。6名のうち、N1合格者が2名しかいないということは、このCds調査の結果にも反映しているのであろうか。つまり、CeferやJFスタンダードのB2やC1に該当するような問題は国際大学の上級6レベルでもまだ容易にできないということであり、国際大学の上級のレベルは、日本語で専門の授業が行なわれているような他大学と比べて低いと言えるのだろう。しかし、国際大学は専門の授業はすべて英語で行なわれ、日本語は必要とされないことや学内の公用語は英語であり、日本語の発信、受容の機会がほとんどないことを考えると、このような結果になるのも当然だと思われる。

#### 5. 1. 「読む」のCds調査の結果

##### 5. 1. 1. 初級の「読む」調査項目の結果（調査項目1～5）

初級の調査項目に対しては、上級1コースと上級6コースはすべての項目に対して回答者全員が回答5を選択したのに対し、上級3は平均値が4.7あるいは4.9であった<sup>8</sup>。

Cefer、JFスタンダードではA1に該当する項目が含まれている。

##### 5. 1. 2. 中級の「読む」調査項目の結果（調査項目6～12）

中級の調査項目になると、上級1コースの平均値は3.7から4.6の間になり、上級3は4.0から4.6の間になった。また、上級6は4.4から4.9の間になり、平均値も上がっていることがわかる。そして、上級6は2レベルの範囲で回答がおさまっていることと、回答5の割合が最も高いことを考えると、中級の調査項目は上級6コースにとってはむしろかしいことではないと言えるだろう。

調査項目12は、平均値が上級3より上級1のほうが高く、その差も大きかった。項目12は「漢字1000字の意味と読み方がわかりますか」である。漢字となると個人差も大きく、たとえ上級3であっても、漢字が苦手な学生は回答2や3を選び、平均値が上級1を下回ったのだろうか。

中級の調査項目には、ATLE、JFスタンダードのA1、A2に該当する項目が含まれている。

##### 5. 1. 3. 上級の「読む」調査項目の結果（調査項目13～26）

上級の調査項目では上級1コースの平均値はさらに下がり、項目18のみが4点台で、他の項目の平均値は2.7から3.6の間になった。また、各項目に対して、回答が3～4レベルにわたるようになり、ばらつきが出てきた。回答5がまったくない項目も目立つようになった。ただし、上級の項目であっても回答5を選んだ上級1の回答者もいる。回答者の中にはJLPTのN1あるいはN2合格者が2名いるので、それらの学生の回答かもしれない。

上級3の平均値は2.7から4.6の間であり、上級3も上級1同様に、回答が3～5レベルにわたって分布するようになった。そして回答1「まったくできない」という選択肢が選



ばれている調査項目も多かった。

上級6の平均値は3.9から4.6の間であり、2点台という平均値はなかった。

上級の調査項目では、項目18で、最も平均がよかったのが上級3、次に上級1、そして最も平均値が低かったのが上級6という結果が出た。また、項目24では、上級1の平均値のほうが上級3の平均値より高く、両者の平均値の差も大きかった。項目18は「小包の不在連絡票を見て必要なことがわかりますか」であり、項目24は「新聞の社会面（事件・事故などの記事）を読んでわかりますか」というものであった。この結果は何を意味しているのだろうか。上のクラスになるほど、自分の限界がはっきりわかるようになり、自分ができない面を知り、低い回答を選ぶ傾向があるのだろうか。さらに、国際大学は英語を媒介語として授業を行なっているので日本語で書かれた専門書や資料を読む必要は原則ないことから、項目23~25のような項目には低い回答を選択したのではないだろうか。

上級の調査項目はCeferあるいはJFスタンダードのA2、B1、B2、C1、C2に該当する。これは難易度からして幅がありすぎであり、A2のものが上級の調査項目に含まれているのも問題である。そして、調査項目の内容自体がやさしくも難しくも受け取れるものだった可能性もある。それが、回答のばらつきを生んだのかもしれない。また、上のレベルにいくほど項目の内容を幅広く受け取って答える傾向が見られるので回答が謙虚になったとも思われる。

「読む」の各調査項目の平均値の範囲と、全体の平均値は以下の表8、9となった。

表8 「読む」の平均値の範囲

	上級1	上級3	上級6
初級レベルの調査項目	5	4.73-4.91	5
中級レベルの調査項目	3.71-4.57	4-4.64	4.43-4.86
上級レベルの調査項目	2.71-4.29	2.73-4.55	3.71-4.57

表9 「読む」の平均値と標準偏差

	上級1	上級3	上級6
人数	7	11	7
平均値	3.90	3.60	4.44
標準偏差	1.11	1.14	0.77

t検定を行なったところ、上級1と3は5%水準で、そして、上級3と6、上級1と6は1%水準で以下の結果のように有意差があることがわかった。

上級1と上級3  $t(17)=2.86, p<.05$

上級3と上級6  $t(17)=9.56, p<.01$

上級1と上級6  $t(13)=5.39, p<.01$

したがって、読む能力に関してはコースが上がるごとに能力が上がっていることが認められた。

## 6. 1. 「書く」の Cds 調査の結果

### 6. 1. 1. 初級の「書く」調査項目の結果（調査項目 1～4）

初級の調査項目については上級 1、上級 3 とともに平均値が 4.5 以上であった<sup>9</sup>。しかし初級の項目であっても、上級 1 と 3 の回答にはばらつきが見られた。上級 6 も平均値は 4.67 以上であるが、調査項目 3、4 になると回答 3 あるいは 4 が選択されていた。項目 3 は漢字が 100 ぐらい書けるかどうかというものであり、項目 4 は簡単な自己紹介文が書けるかどうかというものであったが、上級 6 のコースであっても書くことについて自信があるとは言えないようである。

### 6. 1. 2. 中級の「書く」調査項目の結果（調査項目 5～10）

調査項目 10 以外は、上級 1 より上級 3 コースの平均値のほうが低い結果となった。どちらのコースも回答者が少ないため、平均値そのもの、また、それらの平均値を比較することの有効性はむずかしいところだが、この結果を見る限りにおいては、上級 3 のほうが平均値が低いということは、内容を読んでイメージする場面が上級 1 より上級 3 のほうがより込み入った場面を想像してしまい、その結果平均値が低くなってしまった可能性もある。調査項目 5 と 7 は漢字が 300、あるいは 500 書くことができるかという項目であり、これらの項目に対しても上級 3 のほうが低いというのはどうなのであろうか。この結果は、国際大学では中級以降は漢字は読みのみを要求し、書くことを要求していないこととも関わりがあるのだろうか。

### 6. 1. 3. 上級の「書く」調査項目の結果（調査項目 11～18）

上級の調査項目でも、項目 11、12 は上級 3 のほうが上級 1 より平均点が低く、逆転していた。項目 11 は漢字を 1000、項目 12 は漢字を 2000 書くことができるかというものであり、初級の調査項目 5 と 7 の漢字を 300、あるいは 500 書くことができるかの項目同様、漢字を書くことに関しては逆転が起こっている。1 年生が上級のクラスに入るということは入学以前にかなり日本語を勉強してきていて、漢字を書く能力もあっただろうが、国際大学では中級コース以降は漢字は読むだけで書くことを要求していないので、漢字を書く能力が落ちてしまったということだろうか。

上級 3 コースの平均値の最低は項目 12 の 1.73 であり、2000 字の漢字を書くことは「できない」という結果である。項目 15 では、平均値が最も高かったのは上級 6 ではなく、上級 3 であった。この項目は「自分の計画をまとめて、理由とともにレポートにすることができますか」というものであり、これもイメージする内容が、上級 3 と 6 では異なっているのか、あるいは上級 6 のほうがそのむずかしさをより理解しているということだろうか。

上級の質問になると、上級 1、3、6 のどのコースにおいても回答にばらつきが現れてきている。やはりタスクがむずかしくなればなるほど、学生間にばらつきが出てきているのだろう。

上級の調査項目は Cefer、JF スタンダードでは B1、B2、C1、C2 であった。

なお、「書く」の各調査項目の平均値の範囲は表 10 のようになった。

表 10 「書く」の平均値の範囲

	上級 1	上級 3	上級 6
初級レベルの調査項目	4.57-4.86	4.55-4.73	4.67-5
中級レベルの調査項目	3.29-4.86	3.73-4.64	4-5
上級レベルの調査項目	2.45-4	1.73-4	3-4

「書く」項目全体の平均値を見ても、表 11 のように上級 1 と 3 では、平均値はむしろ上級 1 のほうが高い結果になった。

表 11 「書く」の平均値と標準偏差

	上級 1	上級 3	上級 6
人数	7	11	6
平均値	3.90	3.33	4.22

ここでも、統計を実施するには統計量が少ないのだが、上級 1 と 3 の t 検定を行なったところ、t 統計量=4.08 (自由度=17) で危険率 2.898 であり、1%水準で有意差があるという結果になった。つまり、上級 3 より上級 1 のほうが「書く」能力が高かったということである。ちなみに、上級 3 と 6 では 1%水準で、上級 1 と 6 では 5%水準で以下の結果のように有意差があることがわかった。すなわち、上級 3 より上級 6 のほうが、上級 1 より上級 6 のほうが能力が高いということである。

上級 3 と上級 6  $t(16)=6.61, p<.01$

上級 1 と上級 6  $t(12)=2.21, p<.05$

## 7. 考察

以上、Cds 調査の 4 技能の結果について述べてきた。まず全般的には、「話す、聞く」の平均値のほうが、「読む、書く」の平均値より、上級 1、3、6 のどのコースにおいても高かった。

次に、4 技能のうち、「話す、読む、書く」については、平均値が上級 1 より上級 3 のほうが低いという逆転が起こっていた。そして t 検定の結果でも、「読む」と「書く」に関しては有意差があることが認められた。つまり、上級 1 と 3 では、「聞く」以外は上級 3 のほうが上級 1 より結果が悪く、1 年間の伸びが見られないということであった。また、「聞く」に関しても、上級 1 と 3 では、平均値は上級 3 のほうが高いものの、t 検定の結果では有意差が認められなかったことから、上級 1 と 3 の間には差がないことがわかった。ちなみに「聞く」では上級 3 と 6 の間にも t 検定の結果有意差がなかったので、能力の差が認められなかった。

なぜ上級 3 は能力的に伸びなかったのだろうか。まず、上級 3 コースは他の上級 1 や 6 と比べると、「書く」と「読む」は回答者が 11 名であり、3 コースの中では最も多かったのであるが、「話す」と「聞く」は 4 名と極端に少ないことも結果に影響しているかもしれない。また、前述したが、1 年生が上級のコースに入るためにはそれまでにかなり勉強してきたであろうし<sup>10</sup>、日本語に接することが多かった環境にもいただろうと思われる。しかし、国際大学に入ったとたん、専門の授業はもちろんのこと、大学内でもすべて英語であることと、留学生はほぼ全員学内の寮に住んでいるため、学外の日本人に接することも、また公共の乗り物などに乗ったりすることも

めったにないので、日本語を使用するのは日本語クラスのみということになってしまう。そういう環境に1年間いると、自分の日本語は勉強はしていても以前より伸びていない、あるいは以前より悪くなっていると思ってしまうのではないだろうか。上級の授業は90分授業が週に3回あり、学生は新しいことを学んでいるのだが、学生に自分の能力が落ちているあるいは伸びていないと思わせないような取り組みが必要であると反省している。上級1から上級3の1年間で、自分はここまでできるようになったという自信を持たせる指導が必要だと思われる。教師としては学生が伸びていると思っても、学生はそうのように思っていないので、それに対してきちんと教師がフォローする必要があるだろう。1年間学んで能力が伸びたということを学生に実感させるような取り組みが必要だと思う。

上級1と上級3の間には能力差が認められなかったが、上級3と上級6を比較すると、「聞く」以外は有意差があり、能力の向上が見られた。上級6の回答者は全員2年生であり、上級3と同様英語環境の中で日本語の授業を行っていたのだが、2年間勉強してやっと学習の成果が出たということなのだろうか。

調査項目及び回答の書き方について考えてみると、これも上級1と3の調査結果の逆転に関与しているとも思われる。それは、たとえ英訳をつけていても、項目文の内容自体がいろいろな場面を想像できるものがあるのではないだろうか。項目文を作成する際には「やさしい～」とか「詳しく～」というようにはっきり書くとか、もっと具体的に書く必要があると思われる。それによって回答者が想像する場面が広がらないようにできるであろう。島田他(2003)では、経験の有無によって回答者が想定する場面が異なったりして、それが日本語能力の判定に影響しているのではないかと述べている。

調査項目の書き方と同様に、回答文の書き方も、1と5の「まったくできない」、「問題なくできる」はいいと思うのだが、2、3、4の「少しできる」「なんとかできる」「少し問題はあるが、できると思う」は回答者としてはそれらの回答の違いはどの程度なのか迷うところであると思う。これらの内容をもっと違いがわかるようにする必要もあると思われる。

最後に、調査項目と Cefer、JF スタンダードの関係を見てみたい。調査項目の中には、Cefer、あるいは JF スタンダードにあるのと同じような項目が含まれているが、どのレベルのものが含まれているかというのは次のようであった。

「話す」: A1、A2、B1、B2

「聞く」: A1、A2、B1、B2、C1

「読む」: A1、A2、B1、B2、C1、C2

「書く」: A1、A2、B1、B2、C1、C2

つまり、「話す」は Cefer、JF スタンダードの C1、C2 レベルの調査項目が入っていなかったために、上級1の学生がどこまでできるのか、あるいはどこからはできないのかの上限を見極めることができなかったと言えるだろう。「聞く」も C1 止まりであるために、やはり能力の上限がわからず、上級1と上級3、および上級3と上級6の t 検定の結果、有意差が認められず、違いがないという結果に繋がってしまったのではないだろうか。調査項目を作成する際には、難易度も各技能で揃える必要があると言えるだろう。

## 8. 今後の課題とまとめ

今後の課題としてはまず、調査方法の改善を図る必要がある。回答者の数を確保するために全員に調査を課す方法を考えることが必要であろう。また、調査項目の内容も具体的にし、回答者がいろいろな場面を想定することをできるだけ排除する。次に、各技能の調査項目の難易度を揃えるようにし、Cefer、JF スタンドの C2 ぐらいのレベルまで入れるようにして、回答者の能力の上限がはっきりわかるようにすることも必要だということがわかった。さらに、回答の内容ももっと具体的に書き、学生の選択の迷いを除くようにすべきだと思う。調査項目や回答の書き方の改善とともに、何人かの学生にインタビューを実施し、調査項目の内容でどんな場面をイメージするかをコース別に行なうことも実施してみたい。

次に、Cds 調査自体の今後の課題としては、本稿で扱った以外の 2001～2002 年度の上級 1 から上級 3 の結果を分析し、本稿の結果と比較することで、年度による学生の能力の違いがどの程度あるのかを見ることも行なっていきたい。

三番目としては、上級 1 から上級 3 へ日本語能力が伸びるように取り組むことが課題であり、新年度に向けてどのようなことを行なうのか考えてみたい。

最後に、この調査項目の活用方法であるが、能力の調査だけではなく、学生に達成満足度を与えるものとして活用できないかを今後考えていきたいと思う。

## 謝辞

国際大学での Cds 調査の実施にあたり、保坂敏子先生に Cds 調査票の利用と改訂を承諾いただきましたことを感謝申し上げます。

## 注

- 1 基礎と初級はどちらも全くのゼロレベルから始めるのであるが、その違いは基礎が週に 3 回の授業なのに対し、初級は週 5 回授業がある。また単位も基礎は 1 学期履修して 0.5 単位であり、初級は 1 単位である。
- 2 OPI を受ける学生はそのコースの平均レベルの学生を選んでもらうように担当者をお願いしている。また、学生の OPI の結果が到達目標の基準に達していなかった場合には、話す能力を伸ばすために翌年どのようなことを行なったらよいかを皆で検討している。
- 3 保坂敏子先生に、先生が開発なさった Cds 調査項目の利用と改訂を承諾していただいた。
- 4 調査項目は資料 1 として本稿の終わりに載せた。
- 5 国際大学では上級コースは上級 3 までしかなかったのだが、2010 年に上級 1 に入ってきた 1 年生 7 人が全員、2 年間、つまり上級 6 まで日本語を履修した。従って、欠席したりして、4 技能すべてにおいて 7 人がこの調査を行なったわけではないが、同じ学生がどのように伸びたかを見るのに適しているのではないかと思った。また、今後は上級 4 以上のコースが提供される可能性は極めて低いので、2 年間にわたる上級コースの調査結果はこれが最後になると思われる。
- 6 4 技能の調査結果は資料 2 として本稿の終わりに載せた。
- 7 上級 1、上級 3、上級 6 の 3 群の平均値間に有意差があるかどうかを調べるには t 検定は不向きなので、上級 1 と 3、上級 3 と 6、上級 1 と 6 のように 2 群ずつに分けて t 検定を実施した。

- 8 調査項目の1と2は上級3コースの調査用紙から削除されてしまっていたので、上級3の結果には調査項目1と2は含まれていない。
- 9 上記の注8同様に、上級3の調査項目から項目1と2が削除されてしまったので、上級3の結果にはこれらの項目が含まれていない。
- 10 上級1コースの中でCds調査を行った1年生は「話す、聞く」は9名中5名、「読む」は7名中4名、「書く」は7名中5名であった。つまり、回答者の半分以上が1年生であった。

#### 参考文献

- 島田めぐみ他 (2003) 「日本語教育機関における Can-do-statements 調査の活用方法」『2003 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 pp119-124.
- 島田めぐみ他 (2008) 「海外交流協定校との日本語科目対応づけの試みー自己評価 Can-do-statements を利用してー」『2008 年度日本語教育学会春季大会予稿集』 pp145-150.
- 保坂敏子 (2009) 「短期交換プログラムにおける日本語クラスのレベル設定の試みー Can-do-statements を利用してー」『日本語教育方法研究会誌』 Vol.16, No1. pp2-3

補遺

資料1 各技能の調査項目

<話す>

		レベル	CEFRの 基準	JF standard
1	朝晩の挨拶など毎日の挨拶ができますか。	初級	A1	A1
2	自分の誕生日を日本語で言えますか	初級	A1	A1
3	名前、出身地、専門など、簡単な自己紹介ができますか	初級	A1	A1
4	昨日、何を食べたか日本語で言うことができますか	初級	A2	A1
5	スーパーで値段を聞くことができますか	初級	A1	A1
6	スーパーでほしいものがどこにあるか聞くことができますか	初級	A2	A1
7	レストランなどで注文することができますか	初級	A2	A1/A2
8	自分の家族や趣味、旅行などについての質問に答えられます	中級	A2	A1
9	自分の国の家から日本までどのように来たか説明できますか	中級	A2	
10	目的地までの行き方が説明できますか	中級	A2	A2
11	国の有名なところ、食べ物、人などについて説明できますか	中級	A2	A2/B1
12	IUJに来る前にしていた仕事について順番に説明することができますか	中級	B1	
13	自分の好きなことについて詳しく説明できますか	中級	B2	
14	自分の仕事・専門について簡単に説明できますか	中級	B1	A2
15	本や映画のあらすじが説明できますか	中級	B1	B2
16	自分の買ったものが気に入らなかった時、理由を言って返すことができますか	中級	B1	B1
17	医者に病気について説明することができますか	中級	B1	A1/A2/B1
18	友達を誘ったり、誘いを受けたりできますか	中級	A2	
19	電車で忘れ物をした時、忘れ物について、駅員に詳しく説明できますか	中級	B1	B1/B2
20	日本語の授業でみんなの前で自分の意見が発表できますか	上級	B1/B2	B1/B2
21	ディスカッションやディベートに参加できますか	上級	B1-B2	B1/B2
22	映画や本について簡単な自分の意見を言うことができますか	上級	B1	A2/B1
23	オフィシャルな場面であいさつ・スピーチができますか	上級		A2/B1
24	電話で申し込み、注文、問い合わせなどができますか	中級	A2-B1	
25	会社の面接の時などに、自分ができることなどについての質問に適切に答えられますか	上級	B2?	A2/B1
26	お祝いやお礼の気持ちを言うことができますか	中級	A2-B1	A1
27	相手の気持ちを傷つけずに断ることができますか	上級	B2	
28	自分の興味のあることについて、簡単に説明できますか	中級	B1	B1
29	自分の国の社会制度(教育制度、政治制度など)を詳しく説明することができますか	上級	B2	B1
30	必要な時に敬語が使えますか	上級		
31	ゼミやミーティングで司会ができますか	上級		

<聞く>

		レベル	CEFRの 基準	JF standard
1	駅の窓口で切符を買うとき、はっきりゆっくりと値段を言われたら、わかりますか。	初級	A1	A1
2	相手の名前、出身地、仕事などの自己紹介を聞いて、理解できますか。			
3	日本語のクラスで宿題について簡単な言葉でゆっくり説明されたら理解できますか。	初級	A1/A2	A1
4	サービス業(デパート、ホテルなど)の人にいていねいに話をされて、理解できますか。	初級		
5	病気の時、医者の方の指示がいていねいでゆっくりだったら、わかりますか。	初級	B1	A1
6	郵便局・銀行の窓口で、ゆっくりはっきり話されたら、必要な情報が得られますか。	初級	A1/A2 /B2	
7	電話で開館時間や定休日などの情報を得ることができますか。	中級		A2
8	会社の面接などで面接者の具体的な質問がわかりますか。	中級		
9	電車・駅・デパートなどのアナウンス(放送)がわかりますか。	中級	A2/B2	A2
10	電車やバスの行き先や乗り換え方を聞いてわかりますか。	中級		A2
11	道をたずねて、そこまでの行き方の詳しい説明がわかりますか。	中級	B1/B2	A2
12	テレビドラマや映画の話の流れがわかりますか。	中級	B1	B2
13	企業の電話でのインタビューの際、質問がわかりますか。	上級		
14	知らない人から電話がかかってきた時、その人の用件が、すぐにわかりますか。	上級		
15	親しい人同士がくだけた日本語で話しているのを聞いてわかりますか。	上級	B2	
16	テレビのトーク番組を見て、文字情報を見ないでどんなトピックについて話しているかわかりますか。	上級	B2	B2
17	テレビのディベート番組を見て、自分の専門外の抽象的な話題でも理解できますか。	上級	C1	
18	新しく買った電化製品の取り扱いやサービスについての情報が理解できますか。	上級	C1	B1



<読む>

		レベル	CEFRの 基準	JF standard
1	ひらがなが読めますか。	初級	A1	
2	カタカナで書かれた国名・都市名が読めますか。	初級	A1	
3	漢字100字ぐらいの意味と読み方がわかりますか。	初級		
4	教師が出す授業の連絡などの短くて簡単なメールが読めて、意味がわかりますか。	初級	A1	
5	漢字300字ぐらいの意味と読み方がわかりますか。	初級		
6	漢字500字ぐらいの意味と読み方がわかりますか。	中級		
7	銀行や郵便局で窓口の表示を読んでわかりますか。	中級	A2	
8	学内のポスター等の印刷物を読んでわかりますか。	中級	A2	A1/A2
9	電車やバスなどの社会の公広告がわかりますか。	中級	A2	
10	電話などの伝言メモを読んでわかりますか。	中級	A1	
11	友達からの簡単な手紙を読んでわかりますか。	中級	A2	A1/A2
12	漢字1000字の意味と読み方がわかりますか。	中級		
13	区役所(市役所)などからの通知(お知らせ)がわかりますか。	上級	B1	
14	パソコンや機械の使い方の説明書(マニュアル)がわかりますか。	上級	C1	
15	漢字2000字の意味と読み方がわかりますか。	上級		
16	電話、電気の請求書を見て必要なことがわかりますか。	上級	A2	
17	駅や旅行会社のちらしを読んでわかりますか。	上級	A2	A2
18	小包の不在連絡票を見て必要なことがわかりますか。	上級	A2	
19	専門と関連のある日本語のウェブページを見て、情報を探すことができますか。	上級	B2	B2
20	新聞や雑誌等を見て興味のある記事が探せますか。	上級	B2	B1
21	映画・テレビゲーム・カラオケの字幕を見てわかりますか。	上級	C2	
22	病院で診察を受ける前の質問票を読んでわかりますか。	上級	A2	
23	自分の専門と関係がある日本語で書かれた本や論文を読んでよくわかりますか。	上級	C1	B2
24	新聞の社会面(事件・事故などの記事)を読んでわかりますか。	上級	B1	
25	新聞の社説を読んでわかりますか。	上級	C1	B2
26	小説を読んでわかりますか。	上級	C2	B2

<書く>

		レベル	CEFRの 基準	JF standard
1	ひらがなで物の名前が書けますか。	初級		
2	カタカナで国の名前が書けますか。	初級		
3	漢字を100字ぐらい書けますか。	初級		
4	簡単な自己紹介文が書けますか。	初級		A2
5	漢字を300字ぐらい書けますか。	中級		
6	先生に授業を休むことを伝える電子メールが書けますか。	中級		
7	漢字を500字ぐらい書けますか。	中級		
8	友達や同僚への電話の伝言の簡単なメモを日本語で書くことができますか。	中級	B1/A2	
9	病院の質問表などに日本語で書けますか。	中級		
10	日本語で履歴書が書けますか。	中級	A1	
11	漢字を1000字ぐらい書けますか。	上級		
12	漢字を2000字ぐらい書けますか。	上級		
13	旅行でしたこと、見たこと、食べたものなどについて作文を書くことができますか。	上級	B1	A2/B1
14	インターンシップした後のお礼のはがき・手紙を書くことができますか。	上級		
15	自分の計画をまとめて、理由とともにレポートにすることができますか。	上級		B2
16	志望動機などを入れて面接への申し込みの手紙が書けますか。	上級		B1/B2
17	自分の国の経済や社会事情などについて文章が書けますか。	上級	B2	
18	専門と関係あるいくつかの論文を読んで、それらをまとめ論文が書けますか。	上級	C2/C1/ B2/B1	

資料2 各技能の平均値

<話す>

項目	回答	2010 上級1 9名	2011 上級3 4名	2012 上級6 6名	項目	回答	2010 上級1 9名	2011 上級3 4名	2012 上級6 6名
1	1	0	0	0	8	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	0	0	0
	3	0	0	0		3	1	0	0
	4	0	0	0		4	1	1	0
	5	9	4	6		5	7	3	6
	平均値	5	5	5		平均値	4.667	4.75	5
2	1	0	0	0	9	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	0	0	0
	3	0	0	0		3	0	1	0
	4	2	0	0		4	3	1	1
	5	7	4	6		5	6	2	5
	平均値	4.778	5	5		平均値	4.667	4.25	4.833
3	1	0	0	0	10	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	0	0	0
	3	0	0	0		3	0	1	0
	4	1	0	0		4	5	1	2
	5	8	4	6		5	4	2	4
	平均値	4.889	5	5		平均値	4.444	4.25	4.667
4	1	0	0	0	11	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	0	0	0
	3	0	0	0		3	1	1	0
	4	1	0	0		4	1	1	2
	5	8	4	6		5	7	2	4
	平均値	4.889	5	5		平均値	4.667	4.25	4.667
5	1	0	0	0	12	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	0	0	0
	3	0	0	0		3	2	2	1
	4	1	1	0		4	3	1	1
	5	8	3	6		5	4	1	4
	平均値	4.889	4.75	5		平均値	4.222	3.75	4.5
6	1	0	0	0	13	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	0	0	0
	3	0	1	0		3	3	1	0
	4	2	0	0		4	1	2	1
	5	7	3	6		5	5	1	5
	平均値	4.778	4.5	5		平均値	4.222	4	4.833
7	1	0	0	0	14	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	0	0	0
	3	0	1	0		3	2	1	0
	4	2	0	0		4	3	1	1
	5	7	3	6		5	4	2	5
	平均値	4.778	4.5	5		平均値	3.889	4.25	4.833

項目	回答	2010	2011	2012	項目	回答	2010	2011	2012
		上級1 9名	上級3 4名	上級6 6名			上級1 9名	上級3 4名	上級6 6名
15	1	0	0	0	22	1	0	0	0
	2	1	0	0		2	1	0	0
	3	2	3	1		3	1	2	1
	4	4	0	1		4	4	1	1
	5	2	1	4		5	3	1	4
	平均値	3.778	3.5	4.5		平均値	4	3.75	4.5
16	1	0	0	0	23	1	1	1	0
	2	1	0	1		2	0	1	0
	3	2	2	0		3	4	1	1
	4	3	1	2		4	3	1	3
	5	3	1	3		5	1	0	2
	平均値	3.889	3.75	4.167		平均値	3.333	2.5	4.167
17	1	0	0	0	24	1	0	0	0
	2	1	1	1		2	0	0	0
	3	3	2	1		3	1	2	0
	4	4	1	2		4	6	2	2
	5	1	0	2		5	2	0	4
	平均値	3.556	3	3.833		平均値	4.111	3.5	4.667
18	1	0	0	0	25	1	0	0	0
	2	1	0	0		2	0	1	0
	3	0	3	0		3	3	1	1
	4	2	0	2		4	5	2	2
	5	6	1	4		5	1	0	3
	平均値	4.444	3.5	4.667		平均値	3.778	3.25	4.333
19	1	0	0	0	26	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	0	0	0
	3	1	1	0		3	0	1	0
	4	4	2	2		4	3	2	1
	5	4	1	4		5	6	1	5
	平均値	4.333	4	4.667		平均値	4.667	4	4.833
20	1	0	0	0	27	1	0	0	0
	2	1	0	0		2	0	0	0
	3	0	1	0		3	1	2	2
	4	3	3	1		4	4	2	0
	5	5	0	5		5	4	0	4
	平均値	4.333	3.75	4.833		平均値	4.333	3.5	4.333
21	1	0	0	0	28	1	0	0	0
	2	2	0	0		2	0	1	0
	3	0	2	1		3	3	1	1
	4	6	1	1		4	4	1	2
	5	1	1	4		5	2	1	3
	平均値	3.667	3.75	4.5		平均値	3.889	3.5	4.333

項目	回答	2010	2011	2012
		上級1 9名	上級3 4名	上級6 6名
29	1	0	0	0
	2	1	1	0
	3	5	2	2
	4	2	0	1
	5	1	1	3
	平均値	3.333	3.25	4.167
30	1	1	0	0
	2	0	1	0
	3	4	3	2
	4	3	0	3
	5	1	0	1
	平均値	3.333	2.75	3.833
31	1	1	0	0
	2	1	2	2
	3	4	1	0
	4	3	1	3
	5	0	0	1
	平均値	3	2.75	3.5

<聞く>

項目	回答	2010	2011	2012	項目	回答	2010	2011	2012
		上級1 9名	上級3 4名	上級6 6名			上級1 9名	上級3 4名	上級6 6名
1	1	0	0	0	8	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	0	0	0
	3	0	0	0		3	5	1	0
	4	2	0	0		4	1	2	4
	5	7	4	6		5	3	1	2
	平均値	4.78	5.00	5.00		平均値	3.78	4	4.33
2	1	0	0	0	9	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	0	0	0
	3	0	0	0		3	3	1	3
	4	3	1	1		4	0	2	1
	5	6	3	5		5	6	1	2
	平均値	4.67	4.75	4.83		平均値	4.33	4.00	3.83
3	1	0	0	0	10	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	0	0	0
	3	0	0	0		3	2	0	0
	4	1	1	0		4	1	3	4
	5	8	3	6		5	6	1	2
	平均値	4.89	4.75	5.00		平均値	4.44	4.25	4.33
4	1	0	0	0	11	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	1	0	0
	3	1	0	0		3	2	1	0
	4	4	1	0		4	3	1	4
	5	4	3	6		5	3	2	2
	平均値	4.33	4.75	5.00		平均値	3.89	4.25	4.33
5	1	0	0	0	12	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	0	0	0
	3	2	0	0		3	3	1	1
	4	4	2	1		4	3	2	1
	5	3	2	5		5	3	1	4
	平均値	4.11	4.5	4.83		平均値	4.00	4.00	4.50
6	1	0	0	0	13	1	0	0	0
	2	1	0	0		2	2	0	0
	3	0	0	0		3	1	1	0
	4	2	1	2		4	5	2	4
	5	6	3	4		5	1	1	2
	平均値	4.44	4.75	4.67		平均値	3.56	4.00	4.33
7	1	0	0	0	14	1	0	0	0
	2	1	0	0		2	1	0	0
	3	1	0	0		3	2	2	2
	4	3	2	1		4	4	1	2
	5	4	2	5		5	2	1	2
	平均値	4.11	4.5	4.83		平均値	3.78	3.75	4.00

項目	回答	2010	2011	2012
		上級1 9名	上級3 4名	上級6 6名
15	1	0	0	0
	2	0	0	0
	3	2	0	0
	4	4	3	3
	5	3	1	3
	平均値	<b>4.11</b>	<b>4.25</b>	<b>4.50</b>
16	1	0	0	0
	2	2	0	0
	3	4	1	1
	4	1	3	4
	5	2	0	1
	平均値	<b>3.33</b>	<b>3.75</b>	<b>4.00</b>
17	1	1	0	0
	2	1	0	0
	3	6	1	2
	4	0	3	3
	5	1	0	1
	平均値	<b>2.89</b>	<b>3.75</b>	<b>3.83</b>
18	1	0	0	0
	2	1	0	0
	3	6	1	3
	4	1	2	2
	5	1	1	1
	平均値	<b>3.22</b>	<b>4.00</b>	<b>3.67</b>



<読む>

項目	回答	2010	2011	2012	項目	回答	2010	2011	2012
		上級1 7名	上級3 11名	上級6 7名			上級1 7名	上級3 11名	上級6 7名
1	1	0	X	0	8	1	0	0	0
	2	0	X	0		2	1	0	0
	3	0	X	0		3	1	2	0
	4	0	X	0		4	2	5	2
	5	7	X	7		5	3	4	5
	平均値	5.00	X	5.00		平均値	4.00	4.18	4.71
2	1	0	X	0	9	1	0	0	0
	2	0	X	0		2	1	1	0
	3	0	X	0		3	1	2	0
	4	0	X	0		4	1	3	3
	5	7	X	7		5	4	5	4
	平均値	5.00	X	5.00		平均値	4.14	4.09	4.57
3	1	0	0	0	10	1	0	0	0
	2	0	1	0		2	1	1	0
	3	0	0	0		3	0	1	0
	4	0	0	0		4	2	3	1
	5	7	10	7		5	4	6	6
	平均値	5.00	4.73	5.00		平均値	4.29	4.27	4.86
4	1	0	0	0	11	1	0	0	0
	2	0	1	0		2	0	0	0
	3	0	0	0		3	1	2	0
	4	0	0	0		4	1	2	1
	5	7	10	7		5	5	7	6
	平均値	5.00	4.73	5.00		平均値	4.57	4.45	4.86
5	1	0	0	0	12	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	1	1	0
	3	0	0	0		3	0	1	0
	4	0	1	0		4	2	5	3
	5	7	10	7		5	4	4	4
	平均値	5.00	4.91	5.00		平均値	4.29	4.09	4.57
6	1	0	0	0	13	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	1	1	0
	3	1	1	0		3	1	1	0
	4	1	2	1		4	4	6	4
	5	5	8	6		5	1	3	3
	平均値	4.57	4.64	4.86		平均値	3.71	4.00	4.43
7	1	0	0	0	14	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	1	1	0
	3	2	2	0		3	3	5	1
	4	1	2	1		4	2	2	3
	5	4	7	6		5	1	3	3
	平均値	4.29	4.45	4.86		平均値	3.43	3.64	4.29

項目	回答	2010	2011	2012	項目	回答	2010	2011
		上級1 7名	上級3 11名	上級6 7名			上級1 7名	上級3 11名
15	1	1	3	0	22	1	0	0
	2	1	0	1		2	2	1
	3	2	3	3		3	1	3
	4	3	3	0		4	2	6
	5	0	2	3		5	2	1
	平均値	<b>3.00</b>	<b>3.09</b>	<b>3.71</b>		平均値	<b>3.57</b>	<b>3.64</b>
16	1	1	1	0	23	1	0	2
	2	1	1	0		2	2	0
	3	1	2	1		3	4	6
	4	4	5	3		4	1	2
	5	0	2	3		5	0	1
	平均値	<b>3.14</b>	<b>3.55</b>	<b>4.29</b>		平均値	<b>2.86</b>	<b>3.00</b>
17	1	0	0	0	24	1	0	1
	2	1	1	0		2	0	0
	3	1	1	0		3	4	6
	4	3	5	3		4	3	3
	5	2	4	4		5	0	1
	平均値	<b>3.86</b>	<b>4.09</b>	<b>4.57</b>		平均値	<b>3.43</b>	<b>3.27</b>
18	1	0	0	0	25	1	0	1
	2	0	0	0		2	2	3
	3	1	2	1		3	5	4
	4	3	1	4		4	0	2
	5	3	8	2		5	0	1
	平均値	<b>4.29</b>	<b>4.55</b>	<b>4.14</b>		平均値	<b>2.71</b>	<b>2.91</b>
19	1	0	2	0	26	1	1	1
	2	2	0	0		2	1	4
	3	4	1	2		3	4	4
	4	1	6	3		4	1	1
	5	0	2	2		5	0	1
	平均値	<b>2.86</b>	<b>3.55</b>	<b>4.00</b>		平均値	<b>2.71</b>	<b>2.73</b>
20	1	0	1	0				
	2	2	2	0				
	3	2	3	3				
	4	3	2	2				
	5	0	3	2				
	平均値	<b>3.14</b>	<b>3.36</b>	<b>3.86</b>				
21	1	0	0	0				
	2	1	1	0				
	3	1	3	2				
	4	5	6	3				
	5	0	1	2				
	平均値	<b>3.57</b>	<b>3.64</b>	<b>4.00</b>				

<書く>

項目	回答	2010	2011	2012	項目	回答	2010	2011	2012
		上級1 7名	上級3 11名	上級6 6名			上級1 7名	上級3 11名	上級6 6名
1	1	0	X	0	8	1	0	0	0
	2	0	X	0		2	0	0	0
	3	0	X	0		3	1	2	0
	4	1	X	0		4	1	2	0
	5	6	X	6		5	5	7	6
	平均値	4.857	X	5		平均値	4.571	4.455	5
2	1	0	X	0	9	1	0	0	0
	2	0	X	0		2	0	1	0
	3	1	X	0		3	2	1	2
	4	1	X	0		4	2	6	1
	5	5	X	6		5	3	3	3
	平均値	4.571	X	5		平均値	4.143	4	4.167
3	1	0	0	0	10	1	0	0	0
	2	0	0	0		2	1	1	0
	3	0	2	1		3	3	3	1
	4	2	1	0		4	3	5	4
	5	5	8	5		5	0	2	1
	平均値	4.714	4.545	4.667		平均値	3.286	3.727	4
4	1	0	0	0	11	1	1	3	0
	2	0	0	0		2	1	3	1
	3	1	1	0		3	1	0	3
	4	0	1	1		4	2	3	0
	5	6	9	5		5	2	2	2
	平均値	4.714	4.727	4.833		平均値	2.857	2.818	3.5
5	1	0	0	0	12	1	1	7	1
	2	0	0	0		2	4	2	1
	3	1	4	1		3	0	1	2
	4	2	1	0		4	2	0	1
	5	4	6	5		5	0	1	1
	平均値	4.429	4.182	4.667		平均値	2.429	1.727	3
6	1	0	0	0	13	1	0	1	0
	2	0	1	0		2	2	0	0
	3	0	0	0		3	0	2	3
	4	1	1	0		4	1	3	0
	5	6	9	6		5	4	5	3
	平均値	4.857	4.636	5		平均値	4	4	4
7	1	0	0	0	14	1	0	1	0
	2	1	3	0		2	0	0	0
	3	1	2	1		3	3	2	3
	4	0	1	2		4	2	3	0
	5	5	5	3		5	2	5	3
	平均値	4.071	3.727	4.333		平均値	3.857	4	4

項目	回答	2010	2011	2012
		上級1 7名	上級3 11名	上級6 6名
15	1	0	1	0
	2	1	0	0
	3	3	2	3
	4	2	4	1
	5	1	4	2
	平均値	3.429	3.909	3.833
16	1	0	1	0
	2	1	0	0
	3	4	3	3
	4	2	6	1
	5	0	1	2
	平均値	3.143	3.545	3.833
17	1	1	1	0
	2	0	3	0
	3	4	2	3
	4	2	3	1
	5	0	2	2
	平均値	3	3.182	3.833
18	1	2	3	0
	2	1	3	2
	3	3	0	1
	4	0	4	2
	5	1	1	1
	平均値	2.571	2.727	3.333